

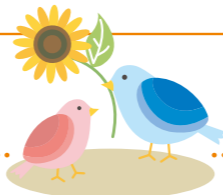
介護保険のサービスってどんなものがあるの？

● 介護保険サービス利用のポイント

1. ケアマネジャーの主な仕事は、①本人や介護の状況を理解し、本人にとっての支援や経済、介護負担のことも考えたケアプランを本人、家族と共に作成、②利用したいサービスの情報を提供し、見学などの調整、③利用の事業所等で問題を相談しにくい時には家族の声を代弁し中立的な連絡調整、④毎月自宅に訪問して計画の継続や修正について家族と検討、⑤家族やサービス事業者等による担当者会議の開催、などです。
2. 若年性認知症の人だけを対象にした事業所は非常に少なく、多くの方は高齢者が主の施設を利用されています。選択にあたっては、若年性認知症の人の利用状況を聞くのもよいでしょう。
3. サービスの事業所を決めるにあたっては、若年性認知症の人の特性を理解し、本人が落ち着くスペースや不安・孤立感を抱かせない親身な声かけと笑顔で対応してくれるかがポイントです。
4. 担当のケアマネジャーに相談し、要介護度による利用頻度や送迎、利用時間や費用など具体的に聞き、実際に見学や体験利用をするなどして、本人に合ったサービスを選択していきましょう。

わたしの体験

▶ 最初は嫌がっても…



- 夫は60歳です。退職してから他にすることもなく家に居ずっぱり、時にいらいらを私に向けてくれることがありました。介護認定を申請しデイサービスを利用することにしました。ケアマネジャーが「家族の会」を紹介してくれました。「家族の会」の方から、「最初は、本人は慣れずに嫌がるもの。根気よく本人が喜ぶように対応してもらおうといいよ」と言ってくれました。事業所と話しあい、調理を手伝わせてもらったり、庭づくりをしたり、高齢者のお手伝いをしたりなど、役割をもらって、今は行くことが習慣になってきました。
- 妻は57歳、前頭側頭型変性症です。デイサービスを嫌がるのではないかと心配をしました。最初のころは緊張していたようですが、行くとたびに笑顔で「おはよう！〇〇さん待ってましたよ～」と中に迎え入れてくれます。そして好きな散歩や音楽をかけてくれたり、スタッフの方々の明るい声かけやモーションが何より妻を安心させてくれ、出かけることが日課となってくれました。

ちょっとアドバイス ケアマネジャーを選ぶ際のポイント

- ケアマネジャーを選ぶ際は、以下のことを参考にするとよいでしょう。①若年性認知症との関わりの経験、②知らないことは面倒がらず調べてくれる、親身に相談にのってくれる、③家族の思いに耳を傾けてくれる、④事業所の母体(利用したいサービスとの関係)、⑤男性か女性か(本人との相性)。ケアマネジャーの事業所は、あまり遠方でなければ住まいとの近さは問題ではありません。
- 担当が決まっても、本人、家族の思いを理解してもらえない時、相性が悪く相談が困難な場合は、担当替えを要望したり、事業所を変えることもできます。

介護保険の主なサービスについて

区分	サービス名	
1. 自宅で受けるサービス	ホームヘルプサービス(訪問介護) 訪問入浴介護 訪問看護 訪問リハビリテーション 居宅療養管理指導	
2. 施設に出かけるサービス	デイサービス(通所介護) 認知症対応型通所介護 デイケア(通所リハビリテーション) ショートステイ(短期入所生活介護)	
1と2のサービス	小規模多機能型居宅介護	
3. 施設に入所し生活ができるサービス	グループホーム(認知症対応型共同生活介護) 有料老人ホームなど(特定施設入居者生活介護) 老人保健施設(介護老人保健施設) 特別養護老人ホーム(介護老人福祉施設) 介護療養型医療施設	*要支援1はグループホーム利用不可 要支援は利用不可
その他	福祉用具の貸与	手すり、杖、車いす、特殊ベッド、スロープなど、日常生活の自立を助ける用具で、介護度により限定がある
	福祉用具購入費支給	入浴補助用具や排泄など日常生活に欠かせない用具について購入費を支給(払い戻し)
	住宅改修	手すり、段差解消、滑り防止、扉の取り替えなど小規模な住宅改修が必要な場合に費用の一部を支給(払い戻し)

ちょっと知っ得 サービスの特性

訪問看護	看護師や准看護師などが、主治医の指示により、通院が困難な方の自宅を訪問し、医療処置や健康指導、リハビリを行います。
訪問リハビリテーション	デイケアやデイサービス利用が困難な時、自宅で認知機能への刺激や言語・運動機能維持のためのリハビリを理学・作業・言語聴覚士などから定期的に受けることができます。
居宅療養管理指導	医師、歯科医師、管理薬剤師、管理栄養士などが、通院が困難な方の自宅を訪問し、健康に生活するための指導を行います。
小規模多機能型居宅介護	同じ施設で、通いを中心に訪問や泊りのサービスを利用でき、場所やスタッフになじみやすいことでショートステイもスムーズというメリットがあります。ただし、他の施設と重複したサービスは受けられなくなり、ケアマネジャーもこの施設のスタッフに限定されます。また、通いと訪問の費用は月額定額です。
グループホーム	1ユニットが9人以下の少人数で家庭的な居住空間で介護を受けることができます。重度で高齢の人も多く、施設によっては活動力のある若年性認知症の人には向かない場合もあります。
老人保健施設(老健)	介護保険の施設ですが、医療系施設として位置付けられており、居宅での生活に戻るための支援が主な目的です。看護スタッフは特養より配置基準が多く、専任の医師やリハビリスタッフがいます。
特別養護老人ホーム(特養)	特養は終の生活施設であり、多床室タイプ、個室のユニットタイプがあり、費用や生活スタイルが施設によって異なります。なお、原則、要介護3～要介護5の方が利用の対象となります。